

抗菌性物質の重要度別ランキング

病性鑑定課

近年、動物とヒトの両方の健康を保護する観点から、動物用抗菌性物質の「慎重かつ責任ある使用」が求められている。平成 18 年 4 月、農林水産省の諮問を受けて、食品安全委員会が代表的な抗菌性物質を系統別に重要度（薬剤耐性菌が出現した場合の代替薬の有無）に基づいて以下のように分類した。

今後、抗菌性物質を使用する際には、飼養管理上の問題点の改善や薬剤感受性の動向に関する情報収集を図りながら、このランクに留意した慎重な使用が求められる。

ランク : きわめて高度に重要（特定のヒトの疾病に対する唯一の薬であり代替薬が殆ど無い）

ランク : 高度に重要（有効な代替薬があるが、その数が少ない）

ランク : 重要（有効な代替薬が十分にある）

ランク	系統（動物用医薬品）	飼料添加物
	第3,4世代セフェム系（セフトオフル等） フルオロキノロン系（エンロフロキサシン等）	バージニアマイシン
	トリメトプリム配合スルホンアミド系（スルファドキシム等） 第2世代セフェム系（セフロキシム） 広域型ペニシリン系（アンピシリン等） その他、ゲンタマイシン、ストレプトマイシン、ドキシサイクリン、ベンジルペニシリン、ホスホマイシン、リンコマイシン、エリスロマイシン等	デストマイシンA
	16員環構造のマクロライド系（チルミコシン等） オールドキノロン系（ナリジクス酸等） クロラムフェニコール系（チアンフェニコール等） 第1世代セフェム系（セファゾリン等） スルホンアミド系（スルファキノキサリン等） テトラサイクリン系（オキシテトラサイクリン等） その他、コリスチン、スペクチノマイシン、フラジオマイシン、カナマイシン等	タイロシン、 アンプロリウム・エトパ ベート・スルファキノキ サリン、オキシテトラサ イクリン、クロルテトラ サイクリン、ポリペプチ ド系